

安全・安心で活力ある二本松づくり



私たちの基本理念

市民の皆様には、日頃から議会へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。昨年、元号が改元され平成から令和となりました。時代が変わり記念すべき年である令和元年12月に新会派「令和創生の会」を結成いたしました。我が国では、少子高齢化が進み、人口減少社会が到来しております。議会においても、現在、人口減少が進む中、危機感を持ちこの課題に取り組んでおります。私達の会派は、平和と人権尊重の理念を基本に、市民本位で市民に開かれた市政運営と議会改革を目指し、市民の皆様の負託を受けた二元代表制の一翼を担う議決機関として、本市の抱えている課題に対し、議会本来の役割である行政の監視・評価機能を十分に果たして参ります。

皆様から選出された私達3人の議員は強い結束の基、市民の健康・教育・福祉の向上そして安全、安心を基本に貴重な税金を有効に活用した、政策立案機能の更なる充実を図り、市民の皆様の声を踏まえた様々な政策を積極的に提案するなど、市民の皆様から信頼され身近に感じていただける議会づくりを目指し活動して参ります。市民の皆様には、これからもご支援とご協力をお願い申し上げます。



二本松市議会令和創生の会会報

令和2年4月
 発行者 令和創生の会
 発行責任者 本多俊昭



会長
 総務市民常任委員長
本多俊昭

陽春の候、皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。日頃より、特段のご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。皆様のご代表であるという原点を大切に「安全・安心で活力ある二本松市」の実現に向け全力で活動してまいりますので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。昨年、小林均議員（塩沢地区）、石井馨議員（木幡地区）との3名で議会内会派「令和創生の会」を結成し、会長に就任し気が引き締まる思いとともに、より一層の努力に励む覚悟であります。また、昨年は平成から令和へと新しい時代の幕開けとなりました。その一方で、台風19号による広範囲に及ぶ豪雨災害により尊い命が失われるなど甚大な被害が発生いたしました。被災に遭われた市民の皆様にお悔やみとお見舞いを申し上げます。近年の台風の大型化に伴い激しさを増す自然災害への備えの難しさを感じたところでもあります。また、今年に入り世界各地で新型コロナウイルスが猛威を振るい感染拡大が心配されるなど、社会全体で、安全・安心の社会づくりのための取り組みについての議論、検討が必要であり、さらには、私たち自身も「自分の命は自分で守る」ことを基本に、地域社会の絆を深め「自助・共助・公助」の仕組みづくりに積極的に取り組んでいく必要があります。今後とも市民の皆様の声と市政における課題等を積極的に政策提言させて頂き、市民の皆様の元気で心豊かなまちづくり実現に全力で取り組んでまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



副会長・経理責任者
 産業建設常任委員長
 議会運営委員長
小林均

平成15年12月初当選以来、議会内では一人会派（公明党）として、5期16年間活動してまいりました。この度、平成から令和へと元号が変わり、新たな時代の開幕にあたり、真に二本松市の将来を考え、行動するために、3名で新会派「令和創生の会」を結成いたしました。結成にあたりまして、それぞれの政治理念、信条は違いますが、二本松市民のため、子供たちの明日のためにとの思いで、積極的な政策立案（条例の制定）、政策提言に努め、議会改革を進めていく決意でございます。

公明党の立党の精神は1962年9月に発表された「大衆とともに語り、大衆とともに戦い、大衆の中に死んでいく」であります。会派名は変わったとしても、今後とも、この立党の精神に恥じることなく、「二本松市民とともに語り、ともに戦い、二本松市民のために死んでいく」をモットーに議会会派活動に邁進して参ります。

今、喫緊の課題は、世界に蔓延する「新型コロナウイルス感染症」との闘いであり、国は4月7日に、東京など7都府県に「緊急事態宣言」を発令いたしました。市内小中学校は4月6日から再開いたしました。市内での感染者発生を、再度休校措置がとられました。また、各種行事の中止・延期など様々な影響が出ております。このような時こそ市民一丸となって、感染症に対する正しい予防策を講じながら、安心・安全な二本松市を取り戻して行くために行動して参りますので、何卒皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



幹事長
 産業建設常任副委員長
 議会だより編集副委員長
石井 馨

昨年12月、それまで一人会派として活動していた3名で新たに令和創生の会を結成しました。ほぼ1年にわたりとも様々な研修に参加し二本松市のこれからを語り合う中で、本市が抱える課題に向き合うためにはより大きな力が必要であると感ずるようになりました。それまでの考え方や行動の経歴は違いますが、真に地域を愛し二本松市を愛する想いは同じであることから、会派名「令和創生の会」に込めた共通項で団結し、様々な政策提言を行っていきたくと考えています。二本松市が抱える課題は多岐にわたりとりわけ少子高齢化の波は中山間地域を中心に将来の不安要素ですが、それでもそのような状況に抗って地域おこし・まちづくりに取組んでいる方々に光が当たると政策が必要であると考えます。また、次代を担う子供たちの教育環境の整備についてはこれからも重要課題として取組んでいきます。そして過疎化が進む中でも交通手段の確保がこれからはますます重要となつてきますが、既製の仕組みにとられない、利用する方に喜ばれる足の確保についても提案し、実現につなげていきたいと考えています。

昨年の台風被害として最近の感染症の拡大など大変な状況ですが、様々な活動を通して地域の方々と明るい未来づくりに一緒に取組んでいきたいと考えています。

ここに生まれて良かった。ここに住んでよかったと全ての市民の方々が言えるような政策の提言を行っていきたくともその実現の努力を続けていきたくと考えていますのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

新型コロナウイルスにかからないために 3つの“密”に気を付けましょう

- 1, 換気されていない **密閉空間**
- 2, 多くの人が集まる **密集空間**
- 3, 間近で接する **密接空間**

感染対策のポイント

うつらないため うつさないため

- 手洗いの徹底
- アルコール消毒の活用
- 人混みを避ける
- 咳エチケットの励行
- 正しいマスクの着用

集団感染を避けるために 3つの行動を

- 1 換気を行う
(可能な場合は換気の窓を同時に開ける)
- 2 人の密度を下げる
(互いの距離を空ける)
- 3 近距離での会話や発声などを避ける
(やむを得ない場合はマスクをつける)

免疫力を高めるには？

清潔 手洗い、うがい、のど飴、ドアノブやスイッチなどを消毒

栄養 体を冷やさない、しっかりと寝る

笑顔 「作り笑い」でも効果あり！

睡眠 1日7時間睡眠10分で20-30分の効果

① 口角を上げる ② 深呼吸

行政視察報告

令和創生の会では、観光について先進的な取り組みを行っている鎌倉市を令和2年1月15日に訪問しました。



鎌倉市役所にて

観光都市である鎌倉市では、豊富な観光資源を生かした事業を展開しており、歴史・文化、自然・景観、ウォーキングなどの野外活動、食の魅力といった様々な年代、目的に合わせた多様性のある観光事業となっています。その一方で、車の渋滞や混雑、ゴミの散乱や観光客の騒音などにも悩まされてきましたが、その対策として、観光に携わる方々が連携し、「住んでよかった。訪れてよかった」と言える観光都市を目指して、分散型の観光客誘致に取り組んでいます。1例を紹介すると安定的な収益を確保の為にホームページの広告掲載や海水浴場のネーミングライツやクラウドファンディング事業を行っています。

このクラウドファンディング事業はオーバーツールズ対策として、一般の方から出資を募り1基10万円×10基の観光ルート板を設置しました。また、「かまくら想いプロジェクト」と称して、旧鎌倉地区周辺の観光スポットを示す案内板設置や、名所の掲示板とそこに至る観光ルート板の整備等も進めています。

事業の安定的な継続策として、ふるさと納税とタイアップする事や、鎌倉を舞台とした漫画を前面に掲げ

観光都市である鎌倉市では、豊富な観光資源を生かした事業を展開しており、歴史・文化、自然・景観、ウォーキングなどの野外活動、食の魅力といった様々な年代、目的に合わせた多様性のある観光事業となっています。その一方で、車の渋滞や混雑、ゴミの散乱や観光客の騒音などにも悩まされてきましたが、その対策として、観光に携わる方々が連携し、「住んでよかった。訪れてよかった」と言える観光都市を目指して、分散型の観光客誘致に取り組んでいます。1例を紹介すると安定的な収益を確保の為にホームページの広告掲載や海水浴場のネーミングライツやクラウドファンディング事業を行っています。



観光場所の看板

二本松市も観光施設・旧跡があり、多くの観光客が訪れています。観光ルートの見直しや特定の地域への偏りなど克服すべき課題も多いため、観光施設の整備や維持のための安定的な収益確保や新たな観光ルートの開拓など取り組みが必要であります。本市においては季節的なもの・地域性などを考慮した施策を行う上で、観光客だけではない、市民にとっても満足するような方策を今後提案していきたく考えています。



先進地視察の様子

研修会参加報告

令和2年1月16日〜17日千葉市で開催された「市町村議会議員特別セミナー」と1月23日に仙台市で開催された「ICT推進セミナー」に参加しました。



市町村議会議員特別セミナー

◆ 市町村議会議員特別セミナー
主な内容は、①「スーパー公務員のチャレンジ」と題する、石川県羽咋市における地域活性化の取り組み事例を、立正大学客員教授高野誠鮮氏（元羽咋市職員）が講演。羽咋市の職員として、地域住民と共同で祭りの復活や、米を活用した安定的な収益確保により、過疎地でありながらブランドの確立に成功した事例が紹介されました。その中で、特に重要に感じたのは、住民の意識改革。「やる気療法」と名付け、徹底した取り組みを行なったことです。
また、空き農家対策として空き農家を古民家へ、農家と農地をセットにする羽咋方式の導入や、烏帽子親制度により若い女性が地区を訪れやすい環境を作るなどの対策が功を奏し、若者の移住も増えています。加えて、神子原米をブランド化し、ローマ法王へ献上するなど、農家の安定的な収入確保の道を開きました。現在ではkgあたり3,000円の価格で安定的に出荷できているとのこと。
その他、②「企業とともに発展する行政」神戸国際大学教授 中村智彦氏、③「子どもの声がるる地方づくり」関西大学教授 山縣文治氏、④「防災と危機管理」明治大学名誉教授 中柳章氏の3つの講演を受講してきました。

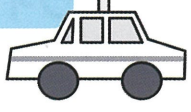
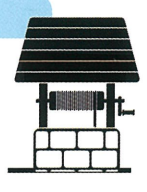
◆ 自治体向けのICT推進セミナー
令和2年1月23日仙台市内で開催された東京インタープレイ（株）主催の「自治体向けICT推進セミナー」に「議会議事ICT化と働き方改革」に参加しました。
既に議会にタブレットを導入している秋田県横手市議会議員 奥山豊和氏による導入事例の講演。横手市では議会改革の一環として①資料のペーパーレス化と②議会運営及び議員活動の充実を目指して検討がなされ、2016年8月に導入されました。その効果は年間250万円の経費削減となつているとのこと。本市でも昨年12月から導入された同システムの積極的活用を図って参ります。



タブレット研修

令和2年度の主な施策の一部を紹介します

- 出産祝い金の増額
令和2年4月1日以降出産された方に対して
いままでは 第1子、第2子、第3子以降いずれも一律一人1万円
→ 4月以降は 第1子1万円、第2子5万円、第3子以降10万円が出産祝い金として支給されることになりました。
- 井戸ボーリング補助の増額
個人で井戸の掘削をされる方に対して補助される金額が増額されることになりました。
いままでは 工事費の40パーセントで上限50万円までの補助が
→ 4月以降は 井戸ボーリングに対する補助が工事費の50パーセントで上限70万円に引き上げられます。
- タクシー券の配布
75歳以上の方又は運転免許証返納された方に対してタクシー券が支給されます。
→ 内容は 対象の方に対して、300円券を24枚計7,200円分のタクシー券が支給となります。
- GIGAスクール制度の導入
市内小中学生の教育活動支援の為に全員にタブレット端末を支給するための財政措置が盛り込まれました。



二本松市議会令和創生の会会報

令和3年1月
発行者
令和創生の会
発行責任者
本多俊昭



会長
産業建設常任委員
本多 俊昭

新年、明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、ご家族、親しい方々と共に輝かしい新春を迎えられたこと、お喜び申し上げます。旧年中は、市議会に対して格別なるご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。未曾有の被害をもたらした東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の発生から間もなく10年が経過しようとしております。さて、昨年は新型コロナウイルス感染症拡大による長期にわたる自粛要請により、市民生活や地域経済にも深刻な影響を受けております。私ども会派「令和創生の会」は、議員として担うべき責務を踏まえ、多くの課題に対応できるような活動に取り組んで参ります。更なる皆さまのご理解と協力をお願い申し上げます。新年が皆さまにとりまして素晴らしい年であることを祈念いたします。

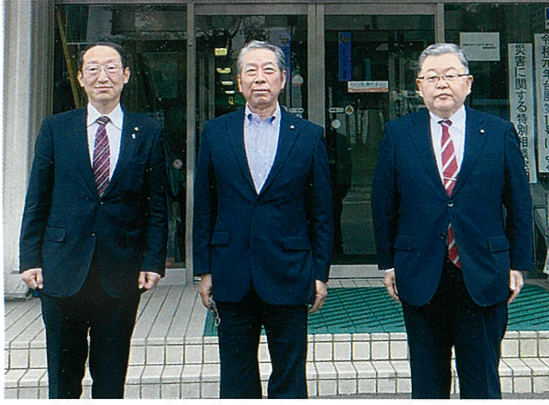
令和2年9月定例会一般質問

一、新型コロナウイルス感染症による本市の影響は

問 新型コロナウイルス感染症による本市の財政状況の見直しは、これまで以上に厳しいものと予測される。このような状況を踏まえ、財政収支を厳密に精査し予算の組み替えと市全体の事業の見直しの考えは、
答 令和元年度決算を受け、繰越金等一般財源が確保されたことで、現時点で感染症対策経費に係る財源を確保するための予算の組み換えや事業の見直しを行うまでには至っていない。今後、感染症対策に要する経費が、国の交付金の限度額を越えた場合、予備費や財政調整基金等の活用で対応する考えである。

二、建設予定の人工芝サッカー場

問 予算規模も約10億円と膨大であり過疎債を活用した予算措置であることから、事業費の詳細と将来のランニングコストについて伺う。
答 杉内多目的広場に人工芝の公認サッカーコート2面を整備する。7月に基本設計が完了し今後、実施計画を進める中で詳細な経費を積算するので、現時点では事業費の詳細、将来のランニングコストについては示すことが出来ない。



副会長・経理責任者
文教福祉常任委員、
議会運営委員
小林 均

市民の皆様には希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より市議会へのご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。昨年は世界的にも例を見ない新型コロナウイルス感染症の拡大により、小中学校の一斉休校や各種行事の自粛など市民生活や地域経済にも深刻な影響が及んでおります。いまだ感染拡大は続き、収束は見通せませんが、ワクチン接種が今年の3月頃より始まる、との希望が見え始めております。私たち「令和創生の会」3名は力を合わせ、東日本大震災からの復興10年目の今年、市民の皆様のお役に立てるように、全力で議会活動に取り組んでまいります。新年が、皆様にとりまして、笑顔が輝き、希望に満ちた年となりますよう心からお祈り申し上げます。

令和2年9月定例会一般質問

一、コロナ禍における避難所運営のあり方について



幹事長
総務市民常任委員会委員長
石井 馨

令和3年の新春を迎えご挨拶を申し上げます。市民の皆様方には輝かしい新春をお迎えの事とお喜び申し上げます。一昨年の台風被害として、昨年の新型コロナウイルス感染症拡大によって、市民生活にも大きな影響がありました。新型コロナウイルス感染症については、現時点で収束が見通せませんが、「令和創生の会」では、昨年、感染症対策に取組む団体との意見交換を行い、いかに対処すべきか学ぶとともに、支援のあり方について会派として取組んで来ましたが、また、今年も東日本大震災から10年を迎え復興から更に一歩進んだ政策が必要となってきます。今年も、たとえ歩みは遅くとも着実に知恵を出し合って、明るい二本松を築くことができるよう力を注いでまいります。令和3年が市民の皆様方にとりまして明るい希望に満ちた年となりますようお祈り申し上げます。どうぞよろしくお願いたします。

問 コロナ禍の中では「分散避難」が重要であり、多数の避難所の開設が必要になる。本市の取と組みと避難者受け入れの優先順位の考えは。
答 本年7月、市内7カ所の宿泊施設との間で「災害時等における宿泊施設の提供等に関する協定」を締結した。感染症による重症化リスクが高い、高齢者や基礎疾患のある方、障がい者、妊産婦等を対象としている。

問 避難者への感染対策と、避難所運営の方法は。
答 「新型コロナウイルス感染症に対応した避難所設置・運営マニュアル」を策定し、避難所における感染対策を徹底。対策に必要な備蓄品の整備を進めており、避難スペースの確保に必要な簡易ベッドの購入経費を補正予算に計上。

問 ICTを活用した高齢者の孤独死対策充実について
答 独居高齢者対策として、SIMカードが付いたLED電球をトイレに設置するだけの、簡単で、低コストな「高齢者の見守りシステム」導入の考えは。
答 大きな財政負担を伴わないシステムであり、高齢者の見守りには、有効な手段であると考え。実証実験をした自治体もあり、今後、これらの検証結果等も参考にしながら、調査研究を進めていきたい。

令和2年6月定例会一般質問

一、新型コロナウイルス感染症拡大への対応について

問 新型コロナウイルスの影響による事業者の休業や市民の自粛などによる現時点での今年度の本市の経済的損失についてどのように考えているか。
答 経営持続化給付金の申請内容から4、5月の減収が前年と比較して平均減収率が50.3%となっている。イベント等の中止や雇用の悪化等の影響もあり本市において大きな経済的損失が生じていると考える。

二、市民の安全確保について

問 道路愛護活動や河川の清掃活動について、地域の実情や作業の安全確保の面から今後見直しが必要と考えるが、市として市道や河川の維持管理についての考えは。
答 道路河川の除草等について、市の直営作業の他、市民の皆様にご協力いただける範囲での協力をいただきたい。今後、市の直営作業ではバックホウ等の効率UPや建設業者の委託、そして地域団体への有償での除草委託などを検討していく。

新型コロナウイルス対策への市議会の取り組み

二本松市議会では昨年4月14日に「二本松市議会災害対策会議」を設置し、4月30日に1回目、5月15日に2回目、10月1日に3回目の会議を開催いたしました。4月30日に1回目の緊急要望書を、5月15日には2回目の要望書を市に提出いたしました。これらの要望に対して5月25日に市から対応状況について報告・回答がありました。そのうえで、10月1日の会議では、これまでの市の対応と経過について確認し、第1回・第2回要望について90%近く何らかの対応がされていることを検証し、新たな要望については、情報提供、意見として提出いたしました。以下市への要望の主なものについて掲載いたします。

要望項目(1回~3回)の主なもの

- ・市民の感染症拡大防止対策に必要な衛生資材の速やかな調達
- ・医療従事者、介護従事者への優先的なPCR検査体制の強化
- ・PCR検査の市民全員が受診できる体制の構築
- ・高齢者へのインフルエンザワクチン接種の無料化
- ・安達医師会と連携し発熱外来の設置
- ・速やかに確実な情報提供の実行
- ・小・中学校長期休業による学力低下防止のための学習支援と心のケア
- ・学校休業による保護者の負担軽減
- ・事業の継続と雇用維持に対する経営支援金の拡充
- ・経営支援金の対象業種の拡大、自己保有店舗への支援

新型コロナ感染症拡大！「影響調査」

令和創生の会活動報告

「令和創生の会」では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響について10月19日に商工関係、福祉関係、保育関係の各事業者を訪問し、現状把握と今後のあり方について意見交換を行いました。

商工業の影響について……二本松商工会議所様

二本松商工会議所様を訪問し、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う商工業者への影響と現状について、会派からの質問に答える形で、説明いただきました。

問 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響

を受けている管内の小企業・小規模事業者からの相談件数や各種申請件数は何件ですか。

答 8月迄の集計で相談件数1,092件で、多い業種は小売業273件、サービス業270件、建設業175件、飲食業165件等です。

問 会員事業所への融資制度・補助金・助成金

はどのようなものがありますか。また、利用実績はどのようになっていますか。

答 主なものとしては、国の施策として個人事業者へ100万円を給付する持続化給付金、福島県の新型コロナウイルス感染症対策支援交付金や二本松市の市民生活応援券などの事業があり、業種ごとに活用が行われています。

社会福祉事業の影響について

……二本松市社会福祉協議会様
二本松市社会福祉協議会様を訪問し、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う社会福祉事業の現状と課題について、会派からの質問に答える形で、説明いただきました。



二本松商工会議所との意見交換

問 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による休業や失業で、生活資金にお困りの方から相談件数は何件ですか。

答 9月末時点で本所157件、岩代支所14件、東支所23件で計194件です。

問 生活福祉資金貸付制度の緊急小口資金、総合支援資金の申請者数は何件ですか。

答 3月から9月迄133件の申請があり、決定したのは130件です。

保育への影響について……学校法人まゆみ学園様

学校法人まゆみ学園様を訪問し、新型コロナウイルス感染症拡大の保育へ及ぼす影響について、会派からの質問に答える形で、説明いただきました。

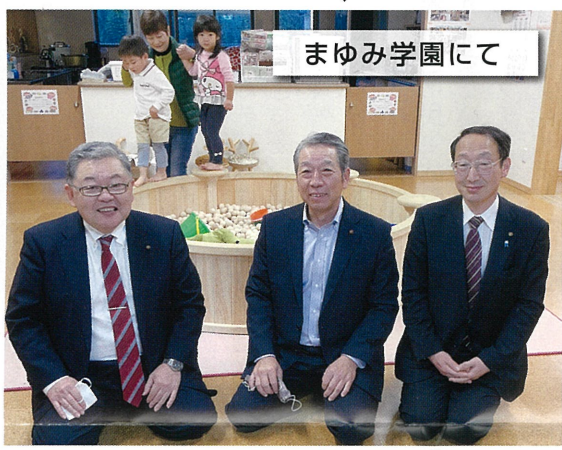
問 新型コロナウイルス感染症の影響により休園中もしくは再開時に、園児・保護者等へはどのように対応されましたか。また、保護者からの子育てに関する悩み相談等に関してどのように対応されましたか。

答 本市での発生を受けて各行事を中止、その後、緊急事態宣言を受け、遊びの広場を時間短縮し、一時預かりを中止しました。また、家庭を離れられない方の為にテイクアウトでお弁当を配食し、こども食堂を再開しました。

問 医療機関従事者や介護職の保護者の園児を預かったと思いますが、特に注意された点をお聞かせください。

答 医療福祉関係者の園児については、特別に開園し、保育を行いました。

問 医療機関従事者や介護職の保護者の園児を預かったと思いますが、特に注意された点をお聞かせください。



まゆみ学園にて



二本松市社会福祉協議会

研修会参加報告

令和2年10月24日福島市立立子山小学校で開催された「朝河貫一博士書簡展示・講演会」及び11月5日郡山市ビッグパレットふくしまで開催された「新しい働き方と女性活躍」と題するシンポジウムに参加しました。

◆朝河貫一博士書簡展示・講演会

朝河貫一博士の父正澄氏が立子山小学校の校長として赴任された縁で、朝河貫一博士の書簡展示、記念の講演会が開催されました。講演は早稲田大学甚野尚志教授から父正澄の姿に学ぶ博士の生き方とそれをつづる書簡の紹介がありました。立子山地区では、そうした縁を地域の結びとして、「NPO法人地域のみんなのチカラ」を立ち上げました。そうした活動は、大いに参考となるものでした。

◆ふくしま女性活躍応援会議

「新しい働き方と女性活躍」シンポジウムが郡山市ビッグパレットふくしまで開催されました。このイベントは福島県とふくしま女性活躍応援会議の主催で、女性活躍に関する講演の後、県内の事業所において女性が活躍している実例が紹介されました。講師は元ANAのCAで健康社会学者の河合薫さんが、自らの生き方を通して、女性が輝ける社会にする為にどうあるべきかを話されました。続けて、内堀知事をコーディネーターとして、県内の職場における女性が特に活躍している事業所の方によるトークセッションでは、会津地区の2つの事例が紹介されました。いずれも女性が活躍している事により職場が働きやすくなったとの説明で、大いに参考となるものでした。



ふくしま女性活躍応援会議

女性活躍
コロナが変えた働き方と生き方
11.5日
ビッグパレットふくしま
18:30-20:00
〒980-0115 福島県郡山市
ふくしま女性活躍応援会議 福島県
福島県男女共生センター事業課
電話 0243-23-8304 FAX 0243-23-8314
E-mail: info@fukushima-women.jp



立子山小児童による鼓笛演奏

朝河貫一博士書簡展示・講演会

令和の時代

令和という新時代を迎えたにもかかわらず、新型コロナウイルス感染症拡大は瞬く間に世界中に広がり、我が国の社会経済はもとより、私どもの日常生活に、かつて経験したことのない甚大な影響をもたらしている。また、これへの対策・処理などの為、国はもとより地方自治体においても多額の財政支出を余儀なくされている。この感染拡大は、これまで当然としてきた日常の重要性を顕在化させるとともに、特に医療機関や介護施設の現場では担い手不足に加え、文字通り「人手」が頼りの「密」な環境ゆえ、感染の危機にさらされ疲弊している現状にある。また、多くの分野で従来の経済性を追求したビジネスモデルが継続困難となっていることから、収入に関する不安を持つ人も多く発生してきている。未だ新型コロナウイルス感染症の収束が見いだせない中であって、今後、社会・経済状況の予測は非常に困難を極め、国においては感染症対策のため財政が悪化している中、地方交付税等の依存財源の確保も厳しくなることが予想される。本市において、特に自主財源の大きな柱とも言うべき市税の減収は避けられず、こうした状況の中にあっても、あえて、市当局が提案し進めようとしている10億円を超える人工芝サッカー場建設事業を推し進める事に強い疑問を呈するものである。このことは旧年中の議会（9月・12月の定例会）一般質問において、議論になったところでもある。今やるべきことは何か。それは、本市の社会経済の立て直しと市民のくらしと生活の確保であることは明白である。いったん立ち止まっても遅くはないと考える。車に例えれば市民は車体であり、それを支える両輪は我々議会と行政である。決してアクセルとブレーキを踏み間違えることのない重要な役割であることを痛感する。